

キャラクター名	プレイヤー名
氷川 ユキ (ひかわ ユキ)	

シンドローム	サラマンダー		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
	パロール					
オプション			年齢	18	性別	女
覚醒	生誕	衝動	破壊	初期侵食率	33	%
出自	姉妹	経験	力の暴走	邂逅	家族	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	2	0	0			2	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	3	1	0			4	戦闘移動	11
社会	2	0	0			2	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	8		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
コキュートス・レド	RC	7r+8	s8	27		氷の雫Lv5+コンサラLv3+黒の鉄槌Lv5 範囲攻撃(選択)、C値7、ダメージ+3、攻撃力+27
アブソリュート・ゼロ	RC	7r+8	s11	27		氷の雫Lv5+コンサラLv3+黒の鉄槌Lv5+増設の雫Lv5 範囲攻撃(選択)、C値7、ダメージ+3、攻撃力+27、装甲値無効
コキュートス・レド(100%)	RC	8r+8	s8	32		氷の雫Lv6+コンサラLv3+黒の鉄槌Lv6 範囲攻撃(選択)、C値7、ダメージ+3、攻撃力+32
アブソリュート・ゼロ(100%時)	RC	8r+8	s11	32		氷の雫Lv6+コンサラLv3+黒の鉄槌Lv6+増設の雫Lv6 範囲攻撃(選択)、C値7、ダメージ+3、攻撃力+32、装甲値無効

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
思い出の一品					
フォーマル					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
No.50 究極のゼロ	P	N			
氷川 春菜 (ひかわ はるな)	P 幸福感	N 偏愛			
自分の力	P 執着	N 恐怖			
レインボウスネーク	P 同情	N 不安			
れいじ	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:	2		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ダークマター	3	2	マイナ	至近	自身	-	-	
効果:	そのメインプロセスの間、自分の行うパロールエフェクトを組み合わせた攻撃の判定のダイスを+Lv個する。							
氷の塔	5	4	Xジャー	視界	範囲(選択)	RC	-	
効果:	「攻撃力:[Lv×3]」の射撃攻撃を行う。自分と同じエンゲージ内の敵を攻撃できない。							
コンセイトレイト:サラマンダー	3	3	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果:	このエフェクトを組み合わせたエフェクトのC値を-Lvする(下限値7)。Dロイス「究極のゼロ」により、このエフェクトを組み合わせた攻撃の判定ダイスを+3する。ただしコストを3とする。							
黒の鉄槌	5	1	Xジャー	視界	-	RC	-	
効果:	「攻撃力:[Lv×2+2]」の射撃攻撃を行う。自分と同じエンゲージ内にいる敵を対象にすることはできない。							
暗黒の槍	3	3	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果:	このエフェクトを組み合わせた攻撃では、対象の装甲値を無視してダメージを与える。ただし、自分はHPを5点消費する。1シナリオにLv回まで使用できる。							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	-	100%	
効果:	対象が判定を行う際に発動する。その判定は失敗となる。1シナリオに1回のみ使用可能。							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

大人しく、心優しい氷使いの少女。  
すこし人見知りなところがあり、友達と呼べるような人は少ない。  
昔から自分を守ってくれた姉が大好きで、べったりである。

小さい頃、自分の力が暴走して、自分の故郷の村を氷漬けにしてしまったことがある。  
冷泉は自分の力によって故郷を壊してしまったことに対する罪悪感と能力への恐怖でそのときの記憶をなくしてしまっている。  
しかし記憶の片隅に残ってしまっているのか、「自分の能力に対する恐怖」が残った。

故郷を凍らせた話は広範囲に広まっており、いつしか「氷の姫君」と呼ばれるようになった。  
関係のない話をされているはずなのに、なぜか胸が締め付けられる。彼女はそれに悩み、苦しんでいる。

姉の春菜は、サラマンダーの「炎」に長けている。  
どんな相手も一瞬で消し炭にする姿から、「紅き悪魔」「黒の姫君」と呼ばれ恐れられている。  
しかし、親しい友達には笑顔で元気に話し、そんな二つ名があることを忘れさせてしまう。  
親しい人にはあだ名を付ける癖がある。  
ユキのことは世界で一番可愛いと思っている、ものすごく可愛がっている。所謂シスコンである。